

## 第3回定例研究会

## 里の条件－日本人の場の感覚－

第3回定例研究会は、劇作家の岸井大輔先生をお招きし、「里の条件－日本人の場の感覚－」というテーマで講演いただきました。「地域再生」「まちづくり」の文脈に「アート」が介在する国内事例は、大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」（新潟）を筆頭に大小あわせて数百にも上ります。芸術という＜創作＞が町を人を変容させ、新たなコミュニティがその将来を担いつつあります。劇作家の岸井大輔さんはその潮流の真っ只中で、全国各地を渡り歩き、緻密なりサーチによって地域の「ものごと」を掘り起こし、日常生活の場に演劇の要素を重ねるという手法で様々な問題提起を行ってこられました。アーティストでもあるという岸井さんのユニークな活動を手がかりに、私たちは、今そしてこれからの日本の共同体の有り様を見出すことでしょうか。

## 【講師プロフィール】

1970年西宮生も、生後すぐ関西を離れ、以後首都圏を転々。演劇を、人間集団を素材とし、それと審美的に関わる事と定義。まちに3ヶ月すみ、その町に必要な人のあり方を考案、形にする作品が多い。  
 近作『東京の条件』（東京アートポイント計画参加）、『ふね、やまにのぼる』（西宮船阪ビエンナーレ）、『diVISION』（としまアートステーション構想）、『鉄カフェ』（枝光本町商店街演劇祭） ほか

## 講師

岸井 大輔 氏（劇作家）

## 指定討論者

三戸 俊徳 氏（日本アートマネジメント学会関西部会事務局長 / 宝塚市文化財団企画総務課長）

山下 里加 氏（アートジャーナリスト / 京都造形芸術大学 芸術表現・アートプロデュース学科准教授）

## テーマ

里の条件－日本人の場の感覚－

## 講演日

2013年7月20日（土）14:00～17:00 受付開始 13:30～

## 場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K205

※駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用ください

※申込不要

